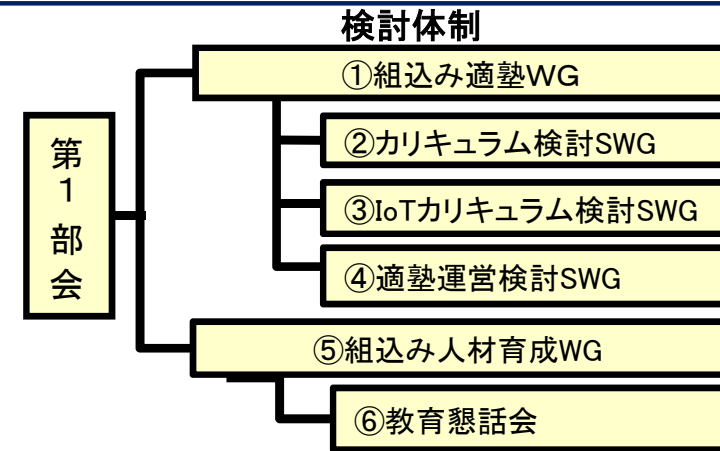


2016年度 活動報告



2016年度 事業計画

1. 「組込み適塾」ブランドの価値向上とさらなる進化
 - － 第9回組込み適塾のブラッシュアップと運営力強化
 - ・IoT特別コースの試行とカリキュラム更新(②、③)
 - ・遠隔講座のさらなる改善と継続運営に向けた体制強化(④)
 - － 適塾プロモーションの継続・強化(①)
2. 部会活動を通じた自由に議論が出来る”場”の提供
 - － 適塾関係者交流会による”場”の創設
 - － 適塾同窓会による企業の枠を超えた継続的交流の場づくり
3. 日本の組込みシステム発展への寄与
 - － IoT時代の価値を「うみだす」人材育成の策定(⑤、⑥)
 - － 組込み適塾修了生が活躍できる場の拡大



2016年度の実績

(実績①) 第9回組込み適塾はIoT分野の実践講座の牽引などにより過去最高の受講数となり、分野を超えた人材育成に大きく貢献した。

■ 第9回組込み適塾のブラッシュアップと運営力強化

- － 受講者145名(前年比141%)、理解度88%、役立度83%を達成した。
- － 委託による運営力の強化、IoT科目の体系化などワーキング主導で講座・運営の分析を実施し、第10回適塾に向けた方針を策定した。
- － 10月に開催を予定していた講師会については、アンケート分析に基づき、計画フェーズ(6月)に会期を移して実施する予定とした。
- － 神奈川での遠隔講座を試行し、4日間で延べ12名が受講する結果となった。今後、第10回適塾での本格運用に向けた準備を行う。

■ 適塾プロモーション活動の継続・強化

- － 産学官連携のもと、説明会、展示、Facebook、メルマガ、Web等を通じたプロモーションを実施し、受講者や新規会員の獲得(5社)に大きく貢献した。
- － 適塾記念センターとの連携による見学会(学芸員解説付き)や特別講演会を実施し、スキルだけでなく適塾精神の継承も図った。

(実績②) 適塾をトリガーとした様々な交流会を実施し、“繋がり”の形成を促進した。同窓会・地域交流会などの連携企画は稼働見合いで見送った。

■ 適塾関係者交流会による”場”の企画

- － ワーキングによる適塾参観(約20日)を開催した他、各コースでの人気講師を交えた交流会を計3回開催し、関係者間の交流を図った。
- － 地域交流会については日程調整がつかず、未実施となった。

■ 企業の枠を超えた継続的交流の場づくり

- － 第9回組込み適塾受講企業30社(うち5社は新規入会・うち2社は東北)参加のもと、入塾式・修了式での交流会を開催し受講者間の交流を図った。
- － 予想を遙かに(141%増)上回った第9回組込み適塾の運営を優先し、適塾同窓会については今年度は見送りとした。

(実績③) IoTをテーマとした教育懇話会を計画通り開催、部会を超えた施策連携を実施。

■ IoT時代の価値を「うみだす」人材育成

- － 「うみだす」人材育成をテーマにビジネス面、技術面、人材育成面から懇話会を実施し、有益なディスカッションを実施した。

■ 組込み適塾修了生が活躍できる場の拡大

- － IoTワークショップコンテスト「WINK2016」に卒業生を参加勧誘し、技術賞を受賞する結果となった。

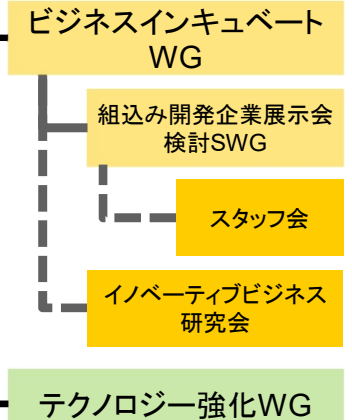
(実績④) 第10回組込み適塾開講に向け、WG/SWGの検討結果に基づき、カリキュラムおよび講座内容の見直しを完了し、受講生募集を開始した。

2016年度 事業計画

- 組込み開発企業展示会を活用した会員企業の提案力・訴求力強化の場の提供
 - 長期視点でのコンセプト立案、出展先企業選定方針の検討を行うSWGを組織し、人を育て会員主導で継続的な組込み開発企業展示会を企画立案する
 - 企業展示会の企画立案から展示当日までに携わることでイベント企画力、マネージメント力向上の実践の場として提供(実行力、統率力あるリーダー育成を目指す)
 - 優良ベンチャー企業の会員外特別出展枠等による出展企業間のシナジー醸成
- 組込み開発企業展示会の継続展開
 - 企業展示会の準備段階から出展企業を巻き込む施策(出展先見学会、要望ヒアリング、出展構想提案)を立案し、人を育て出展先企業と会員間の信頼関係構築を図る
 - 戦略に基づく出展先候補企業のリストアップ・調査・検討・選定等、戦略的な開催計画の立案
 - 検討SWG主導の、PDCAを回す為の来場者アンケート作成等、次につながる施策の確実な実行
- オープンイノベーションのきっかけづくり
 - 展示会での共同提案などの企業間コラボなど、オープンイノベーションのきっかけづくり
 - ビジネス企画研究会を発展させデザイン思考をはじめとした新たなビジネス企画手法を研究するイノベティブビジネス研究会の創設、更なる企画力向上による新ビジネス創出につながる場の提供

第2部会

検討体制



2016年度 実績

(実績①)組込み開発企業展示会を活用した会員企業の提案力・訴求力強化の場の提供

- 7社8名が参加する組込み開発企業展示会検討SWGを立上げ、計4回開催。
- 中長期的な出展先企業の選定のコンセプトを定め、今後の出展先企業を継続検討。
- 会員外特別出展企業(スマートノリユース様 他2社)を選出して、特別出展を実施し、出展企業間のシナジーを醸成。
- 会員が希望する出展先企業へのアプローチ方法の探索

(実績②)組込み開発企業展示会の継続展開

- 第11回 組込み開発企業展示会(ダイハツ工業)を開催し、24企業・団体が出展、来場者300名以上、展示会当日に商談2件開始など盛会の内に終了。
- 第12回 組込み開発企業展示会(ヤンマー)を開催し、18企業が出展、来場者約110名。会場内では活発な提案、情報交換が行われ、後日アポ27件の成果があった。
- 準備段階から出展企業を巻き込む施策として、事前のニーズ説明会およびヤンマーミュージアム見学会を開催。
- 来場者が見たいブースがすぐ分かる様にするなど、来場者目線での会場作りを実施。
- 出展先企業が希望する継続的な情報提供方法の立案

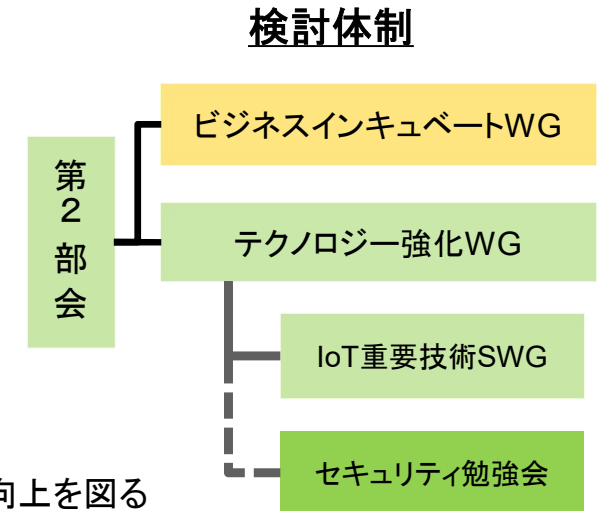
(実績③)オープンイノベーションのきっかけづくり

- 出展企業の連携による訴求効果の向上施策“みんながコンシェルジュ”の実現に向け下地作り(出展企業間の協力体制作り、交流会)を実施。
- イノベティブビジネス研究会を計5回開催。新メンバー向けのSDM手法のトレーニングを実施。

3.(競争力強化支援事業:第2部会)活動報告

2016年度 事業計画

- 強み獲得のきっかけづくり
 - IoT重要技術SWGを創設し、プライベートセミナーを注力分野の技術トレンド調査および企画立案の実践の場として活用する
 - 技術トレンド調査や先進技術の実用化情報等の実態を、プライベートセミナーのテーマ策定や、講師探索等を通じて行うことで、プライベートセミナーを活きた情報収集の手段として活用する
 - プライベートセミナーでワークショップの開催等、会員同士で刺激しあう場を提供し、会員間の人脈の形成と、技術連携のきっかけづくりを推進する
- 企業集団による産総研、大学の研究成果を活用する新たな枠組みづくり
 - 将来の技術の獲得、技術の深掘りの為の共同研究につながる場を提供する
- セキュリティ知識レベルの向上
 - 市場に公開されたセキュリティへの取り組み調査を勉強会形式で実施し、知識レベルの向上を図る



2016年度 実績

(実績①)強み獲得のきっかけづくり

- 6社10名が参加するIoT重要技術SWGを立上げ、計3回開催。
IoTの重要テーマに関して、プライベートセミナーの開催を視野に調査テーマをメンバーで絞り込み、メンバー各自で調査した内容を共有する取り組みを開始。
- プライベートセミナーの内容充実のため回数を一回を減らし4回開催。ワークショップを同時開催し参加者に好評。

(実績②)企業集団による産総研、大学の研究成果を活用する新たな枠組みづくり

- 産業技術総合研究所『テクノブリッジフェア in つくば』に参加。
 - ◆事務局が参加し、会員企業から情報入手したいとの希望があったパネル展示や講演の情報を収集・提供。
- ビジネス支援事業「組込み開発企業展示会」への継続的な支援。
 - ◆産総研様には、出展先に合わせた特別セミナーを開催いただくなど、イベントの活性化にご協力をいただいた。

(実績③)セキュリティ知識レベルの向上

- IoTセキュリティ勉強会を全5回開催。
IPA発行「つながる世界の開発指針」を題材に、最新のセキュリティインシデントの話題なども交えて議論を実施。
 - ◆当初予定を完了。勉強会としての活動は終了。(IoTセキュリティに関する活動はIoT重要技術SWGで継続)

2016年度 事業計画

- 1. 地域間連携の継続的推進による団体間及び産学官連携基盤の更なる強化**
 - － 関東地区での「全国組込み産業フォーラム」継続開催を通じた機構事業基盤拡大
 - － 地域交流プラザの開催を通じた九州地域との連携強化
- 2. 産総研、大学などとの連携による競争力強化のきっかけづくり(第2部会と連携)**
 - － 研究機関との連携施策による注力分野の情報発信と共同研究のきっかけづくり
 - － 新たなサービスの思考やイノベーション発想、情報発信の場の提供
- 3. 各部会施策の広報とプロモーション強化による機構のプレゼンス向上(第1部会・第2部会と連携)**
 - － 総会、第9回組込み適塾、組込み開発企業展示会のプロモーション活動支援と外部イベントでの情報発信
 - － FACEBOOKやメールマガジンなど新たなメディアを通じた更なるプロモーション活動の実施
- 4. ”×IoT”を活用した新たなオープンイノベーションに繋がる場の提供(企画運営委員会直轄)**
 - － ビジネス創出の更なる推進に向け関西経済連合会と合同のコンテスト方式のワークショップ開催

2016年度 実績

- (実績①) 第6回全国組込み産業フォーラム、組込み産業地域交流プラザ2016in九州を開催し、地域団体間の交流の深化に貢献。**
- － 第6回全国組込み産業フォーラムを東京で開催。全国から地域団体12団体、75名が参加。参加団体間の交流を深めた。
 - － 組込み産業地域交流プラザ2016in九州を開催。51名が参加。九州団体との交流を深め、次年度全国フォーラム熊本開催に繋げる。
- (実績②) 合同セミナー・テクノブリッジフェア・臨海副都心センター見学会により、産総研の先進的な研究に関して情報発信するとともに、産総研様のご協力によりイノベーション発想の場を提供。**
- － AIST－ESIP合同セミナー(WINK2016併設)、産総研テクノブリッジフェアへの参加(第2部会と連携)、産総研臨海副都心センター見学会(全国組込み産業フォーラム前日イベント)により、産総研の研究に関して情報発信。参加者から好評を得たが、共同研究など具体的な成果には至らず。
 - － 産総研関西センター内の実証実験ハウスをイノベーション発想の場として活用(第2部会と連携)。現状利用頻度が低いため、今後活用を促進する。
 - － 活動中の研究会が減少したため、研究会活動報告会は開催せず。
- (実績③) 広報活動の強化により機構のプレゼンス向上に貢献し、機構施策への参加者増加、会員獲得につなげた。**
- － 機構施策の広報活動により新聞記事6件掲載。従来のプロモーションに加え、外部イベントでの情報発信を6回実施。機構プレゼンスの向上に貢献。
 - － FACEBOOKによる機構施策のプロモーションを継続的に実施。一定のアクセスはあるが、効果については確認できず。
 - － 関連団体7団体・10のイベントを後援・協賛。関連団体との連携強化と機構のプレゼンス向上に貢献。
 - － 関西組込みシステム開発技術展に協賛団体として出展。第2部会と連携し、会員企業7社と共同展示し、機構施策のプロモーションを実施。
- (実績④) IoTをテーマとしたワークショップコンテストWINK2016を開催。**
- － オープンイノベーションの実践・きっかけづくりを狙い、WINK2016を関西経済連合会と共同で開催(企画運営委員会直轄)。